

主要産地における平成29年産水稻の生育状況等について 第14報 (8月22日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成29年8月23日)

道府県	生育状況等		
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	
北海道		<p>育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)</p> <p>平年に対する遅速等</p>	<p>同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)</p>
	(全道)	<p>8月前半の気象は、オホーツク海側や太平洋側では、オホーツク海からの冷たく湿った気流の影響により日照時間が少なく、気温の低い日が続いたが、全道的には、気温、日照時間は平年並に推移し、降水量は少なかった。生育は、平年並に推移している(遅1日)。草丈は94.6cm(平年差+4.2cm)、葉数は11.0枚(平年差+0.3枚)、葉数は58本/m<sup>2</sup>(平年差-23本)でいずれも平年並。 (北海道農政部 8月15日現在)</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、葉いもちと穂いもちはやや多、ウンカ類は平年並、フタオビコヤガは少、アヒゲホソドリカスミカメはやや多の予報(北海道病害虫防除所 7月27日公表)</p>
青森	(生育)	<p>(空知) 生育は平年並に進んでいる(遅2日)。草丈は96cm(平年差+5cm)で平年並、葉数は11枚(平年差+0枚)で平年並、葉数は59本/m<sup>2</sup>(平年差-26本)でやや少。(空知総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(石狩) 出穂期は早く、登熟は順調である(早1日)。草丈は96.1cm(平年差+4.5cm)、葉数は11.0枚(平年差+0.4枚)、葉数は60本/m<sup>2</sup>(平年差+20本)でいずれも平年並。(石狩総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(後志) 出穂期は4月日で平年並。登熟は平年並。草丈は96.4cm(平年差+1.9cm)で平年並、葉数は11.2枚(平年差+0.4枚)で平年並、葉数は52本/m<sup>2</sup>(平年差-58.0本)で少ない。生育の遅速は±0日。(後志総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(胆振) 生育は平年並(早1日)。草丈は94.9cm(平年比1.1)でやや長、葉数は10.9枚(平年比1.0)で平年並、葉数は516.0本/m<sup>2</sup>(平年比1.0)で平年並。(胆振総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(日高) 低温・曇雨により登熟は遅い(早1日)。草丈は99.5cm(平年差+3.1cm)で平年並、葉数は11.3枚(平年差+0.5枚)で平年並、葉数は573.9本/m<sup>2</sup>(平年差+40.9本)でやや多。(日高総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育はやや遅れて推移(出穂遅2日)。草丈は93.8cm(平年比103.4%)で平年並、葉数は11.0枚(平年比102.8%)で平年並、葉数は518本/m<sup>2</sup>(平年比90.6%)でやや少。(渡島総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(釧路) 生育は平年よりやや遅れている(遅3日)。草丈は97.9cm(平年差+4.7cm)、葉数は10.8枚(平年差0.0枚)、葉数は584.0本/m<sup>2</sup>(平年差-20.8本)でいずれも平年並。(釧路総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(上川) 生育の遅速は平年並に推移している(遅1日)。草丈は90.1cm(平年比103%)、葉数は10.9枚(平年比101%)、葉数は597本/m<sup>2</sup>(平年比96%)でいずれも平年並。(上川総合振興局 8月15日現在)</p> <p>(留萌) 生育は平年よりやや遅れている(遅4日)。草丈は92.3cm(平年差+3.6cm)で平年並、葉数は11.2枚(平年差+0.5枚)で平年並、葉数は466本/m<sup>2</sup>(平年差-46本)でやや少。(留萌振興局 8月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 出穂期は8月1日、生育は平年並(遅1日)。草丈は93.2cm(平年比108%)でやや長、葉数は9.2枚(平年比100%)で平年並、葉数は42.6本/m<sup>2</sup>(平年比98%)で平年並。(オホーツク総合振興局 8月15日現在)</p>	<p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少ない、紋枯病は平年並と予報。斑点米カメムシ類、フタオビコヤガはやや多い、コバネイゴ、ウンカ類はやや少ない、コブメイガは少ないと予報。(青森県病害虫防除所 7月26日公表)</p>
	(生育)	<p>・8月15日現在の出穂状況は、県全体で99%で、県全体の出穂終わりは、平年並の8月12日であった。 (青森県 8月16日付)</p> <p>・県南地域を中心に低温と日照不足が続いており、生育状況が懸念される。8月21日から不観測を追加実施。 (青森県 8月18日付)</p>	<p>・出穂直前〜始期の巡回調査(8月1〜14日、全県)では、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉への発生は、ほぼ平年並。8月3日頃から穂いもちが発生しやすい状況が続いている。穂いもちの発生圃場や、出穂期が遅れている圃場では、追加防除を実施するよう指導。(岩手県病害虫防除所 8月18日付)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちと紋枯病はやや多、斑点米カメムシ類(カスミカメムシ類)は多、フタオビコヤガは平年並、ウンカ類とツマグロヨコバイは少の予報。(岩手県病害虫防除所 7月27日付)</p>
岩手	(生育)	<p>・県内は8月上旬から日照が少なく、気温が低い状態が続いており、8月17日に仙台管区気象台から発表された「東北地方1か月予報」では、今後8月25日頃まで気温の低い状態が続く見込み。</p> <p>・8月17日現在、北上川流域の移植栽培では登熟期を迎えている。低温少日照の気象経過により登熟が遅く、いもち病の発生しやすい状況。</p> <p>・直播栽培や県北沿岸部では、出穂が遅れている。まだ出穂していない圃場では、平均気温20℃以下の低温が予想される場合、10cm程度の深水管理をするよう指導。 (岩手県 8月17日付)</p> <p>・8月10日現在、県全体で84%の水田で出穂したとみられる。地帯別の出穂割合は、北上川上流84%、北上川下流87%、東部62%、北部64%である。</p> <p>・県全体の出穂始期(10%出穂)は8月1日頃(平年差：-2日)、出穂盛期(50%出穂)は8月6日頃(平年差：±0日)であり、出穂は平年並であった。 (岩手県 8月10日付)</p>	<p>・8月1日頃から低温少日照で、雨の日が多く、いもち病の発生に好適な状況が続いている。</p> <p>・巡回調査(7月24日〜25日)の結果、穂いもちの発生は平年より少ない状況だが、仙台管区気象台の発表(8月15日)では、8月22日まで太平洋側を中心に低温や日照不足が続くため、穂いもちの発生が懸念される。 (宮城県病害虫防除所 8月17日公表)</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少、紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類は多と予報。 (宮城県病害虫防除所 8月4日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</p>
	(生育)	<p>・8月17日現在、63,249ha(水稲作付見込面積の98.4%)で出穂が確認され、本年の穂摘期(県作付見込面積の95%で出穂)は平年と同じ8月11日となった。</p> <p>・直播栽培等ごく一部の圃場では、まだ出穂していないところや現在出穂中のところもある。</p> <p>・8月1日頃から日照不足と低温が続き、8月10日に気象台から「日照不足と低温に関する宮城県気象情報第1号」が発表されており、いもち病への警戒が必要な状況となっている。</p> <p>・生育が遅い水田や葉色が極度に濃い水田などでは、日照不足や低温により、上位葉での葉いもちの発生や穂への感染が懸念されることから、水田を入念に見回り、いもち病の発生を確認した場合は直ちに防除するよう指導。 (宮城県 宮城県米づくり推進本部 8月18日付)</p> <p>(仙台) 7月までは平均気温、日照時間ともに平年を大きく上回り、生育も順調であったことから、管内の出穂期は平年並の8月4日となっている。穂いもちの大量感染に好適な気象条件が連続して出現しており、生育ステージの遅い水稲等で上位葉での葉いもちの発生や穂いもちへの感染が非常に懸念される。 (宮城県仙台農業改良普及センター 8月17日付)</p> <p>(美里) 管内の平均出穂期は8月1日。管内直播栽培(鉄コーティング湛水直播)展示ほ(小牛田)のひとめぼれの生育概況は、草丈は84.6cm(前年比115%)、葉数は483本/m<sup>2</sup>(前年比75%)、葉数は12.0枚(平年差±0枚)、葉色(SPAD値)は36.5(前年差+2.8)、幼穂長は30.0mm(前年差-48.3mm)。直播栽培では減数分裂期に入っている。(美里農業改良普及センター 8月2日付)</p> <p>(栗原) 8月に入ってから、日照不足と低温が続いている。8月20日発表の週間予報では、向こう一週間、曇りや雨の日が多いと予報されている。8月17日現在の管内の水稲の出穂状況は98.5%で、穂摘期は平年より3日遅い8月13日。直播栽培では、まだ出穂していないほ場や出穂中のほ場がある。低温と日照不足が続いているため、直播栽培等の出穂が遅いほ場や萌えみどり、播種用剤によるいもち病防除を実施していないほ場では、穂いもちの発生が確認されている。ほ場を入念に見回り、いもち病の発生を確認した場合は、直ちに防除するよう指導。(栗原農業改良普及センター 8月21日付)</p> <p>(石巻) 7月下旬ごろから、曇りや雨の日が多く、低温・曇雨傾向となり、大雨となる日があった。石巻アメダスによると8月上旬の日照時間は平年の29%となっており、登熟への影響が懸念される。管内の稲作地帯別の出穂期は、北部平畑が8月2日、仙台湾岸が8月1日、三陸沿岸が8月3日で、管内全体では平年並の8月2日となった。しかし、その後水稲生育が遅化しており、出穂が遅れているほ場が見られる。生育期遅延の出穂期は、ひとめぼれで平年より2日、ササニシキで1日遅くなっている。穂摘期の止葉葉色は平年より遅くなっている。穂いもち感染好適条件が管内広域に発現している。ほ場の見回りを強化し、いもち病の早期発見・対策に努めるよう指導。 (石巻農業改良普及センター 8月18日付)</p> <p>石巻管内の水稲は傾種期〜登熟期に達しているが、品種、作型、田植え時期等により出穂期が遅れている圃場も見受けられる。低温・日照不足に伴ういもち病への警戒及び登熟促進対策を指導。 (宮城県米づくり推進石巻地方本部 いしのみま農業協同組合 8月21日付)</p> <p>(本吉) 8月9日現在、気仙沼市本吉町の生育調査ほ(ひとめぼれ)においては8月8日、南三陸町入谷の生育調査ほ(ササニシキ)においては8月1日にそれぞれ出穂期を迎えた。管内では8月2日に始期を迎え、8月7日に全期を迎えた。8月9日現在の出穂状況は85%となっている。直播栽培普及展示ほ(鉄コーティング湛水直播)の8月1日調査では、生育は順調に進んでおり、減数分裂期を迎えている。 (宮城県本吉農業改良普及センター 8月10日付)</p>	<p>・8月1日頃から低温少日照で、雨の日が多く、いもち病の発生に好適な状況が続いている。</p> <p>・巡回調査(7月24日〜25日)の結果、穂いもちの発生は平年より少ない状況だが、仙台管区気象台の発表(8月15日)では、8月22日まで太平洋側を中心に低温や日照不足が続くため、穂いもちの発生が懸念される。 (宮城県病害虫防除所 8月17日公表)</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少、紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類は多と予報。 (宮城県病害虫防除所 8月4日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</p>

注：この資料は、地方自治体及び出先機関等が各々のホームページで公表している資料について、一般及び関係者に周知することを目的として、米穀機構情報部が各公表資料の一部を抜粋し取り纏めたものです。各情報の詳細につきましては、末尾に明示している原資料を参照してください。

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等(抜粋)
秋 田	<p>(鹿 角) 7月25日の定点調査では、草丈は73.5cm(平年比101%)と平年並、莖数は565本/m<sup>2</sup>(平年比108%)と平年よりやや多い、葉数は12.4葉(平年並+0.1葉)と平年並、葉色は40.8(平年比110%)と平年より濃い結果となった。各地で出穂期をむかえており、鹿角管内での出穂期(盛期)は平年より3日早い8月3日となった。(8月4日付)</p> <p>(北秋田) 7月末の出穂状況は3.4%となっており、平年より遅れている。葉いもちの発生ほ場が散見され、穂いもちへの移行が懸念される。(8月3日付)</p> <p>(山 本) 7月14日現在の管内水稲定点調査(管内9地点、品種:あきたこまち)の生育は、草丈60.9cm(平年比96%)、葉数514本/m<sup>2</sup>(平年比96%)、葉数11.0葉(平年並-0.1)、葉色(SPAD値)43.6(平年比105%)となっている。(7月14日付)</p> <p>(生育) (秋 田) 8月4日現在、管内のあきたこまちは出穂期を迎えている(8月4日付) (由 利) 出穂進捗は、8月15日時点で94.5%(平年99.8%)となった。(8月18日付) 出穂進捗は、出穂期(50%)は管内全体では平年より1日遅い8月6日だったが、田植え時期や品種、地域により差が大きい状況。(8月10日付) (仙 北) 管内では8月3日(平年7月31日)に出穂始期を迎え、8月7日(平年8月3日)に盛期、8月13日(平年8月10日)に終期となり、平年より盛期で4日遅れとなっている。(8月18日付) (雄 勝) 8月10日現在、出穂期は終期を迎えている。(8月10日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや多い、紋枯病は平年並、セジロウカ、フタバビコヤガはやや少ない、斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ)は多い、フタバビコヤガはやや少ない、アワヨトウは多いと予報(秋田県病害虫防除所 7月28日公表)</li> <li>斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</li> </ul>
山 形	<p>(生育) ・県内では、8月中旬以降、曇りや雨の日が多く、日照不足となっている。8月11日～16日の日照時間は、平年に比べ、米沢市14%、山形市20%、新庄市43%、酒田市92%と少なくなっている。また、8月18日11時気象庁発表の週間天気予報によれば、今後一週間は曇りや雨の日が多く、また最高気温は平年より低く経過する予報となっている。今後低温、日照不足や降雨が続くと、いもち病や稲こじ病の発生、発熱の遅れによる未熟粒の発生が懸念される。(オールやまがた米づくり日本一運動本部 8月18日付)</p> <p>・日照不足により、発熱が遅くなり、青熟歩合や籾水分の低下が遅れることが懸念される。湛水期間を短くした間断湛灌により稲体及び根の活力を維持して発熱を促す。また、出穂後30日間は水を切らさず、発熱後期まで湛水水分を維持する。(山形県農業技術環境課 8月17日付)</p> <p>(東南置期) 出穂期は概ね平年並みとなる見込み。(オールやまがた米づくり日本一運動置期地域本部実践班 8月2日付)</p> <p>(酒田飽海) 生育診断「はえぬき」(酒田市萩島)の出穂期は平年より2日遅れの8月6日、「つや姫」(酒田市漆曽根)の出穂期は平年より1日遅れの8月11日、管内の出穂盛期は平年より1日遅れの8月6日となった。今年に発熱の遅れが遅れたこともあり、例年に比べて圃間間や圃場内で出穂の「ばらつき」が大きくなり、刈取り時期の判定には留意する必要がある。(管内総合支庁酒田農業技術普及課 8月15日付)</p> <p>(最 上) 最上管内の出穂は、7月20日現在の見込みより早まり、ほぼ平年並となっている。既に早生品種は種が出揃い、8月7日前後には「はえぬき」の出穂期となる。(最上総合支庁農業技術普及課 8月4日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</li> <li>8月の病害虫の発生量は、穂いもちと紋枯病はやや少、斑点米カメムシ類とアワヨトウは多い予報(山形県病害虫防除所 7月26日公表)</li> </ul>
福 島	<p>(生育) ・中通りや浜通りを中心に日照不足と低温は、8月23日ごろまで続く見込みのため、農作物の管理に十分に注意するよう指導。出穂後、少なくとも30日間は湛水せず圃間かんがいとし、根の活力を維持することで発熱の向上を図る。中山間地域等でまだ稲穂に達していない保場では上位葉の葉いもち発生状況等に注意し、病斑がみられる場合は防除する。(福島県農林水産部農業振興課 8月18日付)</p> <p>・農業総合センターの調査では、出穂期が平年より早まっている。草丈はやや長く、葉数は平年並からやや多い状況。(福島県農林水産部 8月4日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>穂いもちの発生量は平年並、紋枯病はやや多い、稲こじ病は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報(福島県病害虫防除所 7月21日公表)</li> <li>斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月26日付)</li> </ul>
茨 城	<p>&lt;水戸市 7月28日現在&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月1日移植 「あきたこまち」の出穂期は7月16日で平年並。「コシヒカリ」の出穂期は7月23日で平年より3日早い。</li> <li>5月10日移植 「コシヒカリ」の出穂期は7月27日で平年より4日早い。(茨城県農業総合センター農業研究所 7月31日付)</li> </ul> <p>(生育) &lt;龍ヶ崎市 8月7日現在&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月27日移植 「あきたこまち」の出穂期は、平年より5日早い7月8日で、「コシヒカリ」の出穂期は、平年より2日早い7月21日だった。発熱積算気温による「あきたこまち」の成熟期は、平年より5日早い8月14日と予測される。また、「コシヒカリ」の成熟期は、平年より1日早い8月28日と予測される。</li> <li>5月8日移植 「あきたこまち」の出穂期は、平年より1日早い7月16日で、「コシヒカリ」の出穂期は、平年より5日早い7月23日だった。発熱積算気温による「あきたこまち」の成熟期は、平年並の8月23日と予測される。また、「コシヒカリ」の成熟期は、平年より4日早い8月31日と予測される。(茨城県農業総合センター農業研究所 8月10日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の穂いもちの発生量はやや少ない、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予報(茨城県病害虫防除所 7月31日公表)</li> <li>北関東で綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月12日付)</li> </ul>
栃 木	<p>(生育・収穫) &lt;普通植栽培(あさひの夢) 8月3日調査結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草丈は77.2cmで平年並、葉数は496本/m<sup>2</sup>で平年比111%と多い。</li> <li>葉数は12.4で平年より0.2葉多く、葉色は4.3で平年並である。</li> <li>葉色×葉数値は2.146で平年比119%と高い。</li> <li>幼穂長は0.16cmで平年並である。</li> </ul> <p>&lt;早植栽培(コシヒカリ) 8月3日調査結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出穂期～穂揃期となっている。出穂期が平年よりも早まっており、成熟期も早まると考えられる。</li> <li>収穫開始時期は、県南部が8月第6半旬、県中部が9月第1半旬、県北部(標高の高い地域を除く)が9月第2半旬からと予想される。</li> <li>全体的に出穂期の葉色が平年よりもやや淡く、高温による胴割粒、白未熟粒の発生が懸念される。(栃木県農政部経営技術課 8月8日付)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部地域で葉いもちの多発生のほ場や進展型病斑が確認されている。感染好適条件が7月第5～6半旬に連続して見られる地域もあり、いもち病の多発生の懸念される。(栃木県農業環境指導センター 8月3日公表)</li> <li>7月下旬～8月下旬のいもち病の発生量は平年並、綿葉枯病の発生量はやや多、斑点米カメムシ類は多いと予報(栃木県農業環境指導センター 7月21日公表)</li> <li>北関東で綿葉枯病(ヒメトビウンカ)の発生が「多い」と予想(農林水産省 7月12日付)</li> </ul>

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
埼玉	<p>&lt;センター内生育相 8月3日現在&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培（5月2日播種 コシヒカリ）は、草丈は出穂期調査では平年をやや下回った。これは、出穂が早まり、生育期間が短くなったためと考えられる。茎数は、初期から分けつが旺盛で強勢種の割合が高くなったと考えられ、最高分けつ期茎数は平年並であったものの、以降天折する弱小茎が少なく、平年を上回って推移した。出穂期の予想穂数調査から、穂数は平年を上回ると思われる。また、出穂期以降、日平均気温27℃以上の高温が続いたことから、高温障害の発生が懸念される。</li> <li>早播栽培（5月19日播種 彩のかがやき）は、草丈は平年並に回復した。茎数は先月から引き続き平年を上回って推移し、過繁茂気味の生育となっている。葉位も平年を上回って推移しており、主穂葉数が1枚増加すると予想される。幼穂長は、移植後10日調査で3.4cm（平年値：2.0cm）となっており、出穂期は平年並からやや早く考えられる。</li> <li>普通栽培（6月26日播種 キヌヒカリ）は、7月の高温多照により、移植後30日調査では草丈、茎数、葉位とも平年を上回り、順調な生育である。</li> </ul> <p>&lt;県内全般 8月3日現在&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター内同様、全般に順調な生育で茎数（穂数）が十分確保されている。</li> <li>早期栽培の出穂期は、生育前半の好天の影響で平年よりも5~7日程度早まった。</li> <li>早播栽培でも出穂期は平年よりも3~5日程度早まった。</li> <li>普通栽培や晩生品種の「彩のかがやき」では、幼穂形成期が平年よりも数日早まっている。</li> </ul> <p>（埼玉県農業技術研究センター 8月3日現在）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少、紋枯病は多、もみ枯細菌病、ヒメトビウンカ、稲葉枯病、セジロウンカはやや多、イネツトムシ（第2世代幼虫）はやや少、イネアムシは平年並、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類は平年並と予報（埼玉県病害虫防除所 7月27日公表）</li> <li>斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</li> </ul>
千葉	<p>（生育）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月20日頃に補付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は、平年と比較して2日から3日程度早くっており、成熟期は早いところでは「ふさおとめ」は8月11日頃から、「ふさこがね」、「コシヒカリ」は8月24日頃からと予測される。また、5月1日頃に補付した「コシヒカリ」の出穂期は3日程度早くっており、成熟期は早いところでは8月29日頃からと予測される。（千葉県農林水産部 7月28日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>向こう1か月間の病害虫の発生量は、いもち病（穂いもち）は少、紋枯病はやや少、こま葉枯病は多、斑点米カメムシ類は平年並の予報（千葉県農林総合研究センター 8月10日公表）</li> <li>斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</li> </ul>
新潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月31日現在、出穂期は県平均で、こしいぶきでは平年並の7月30日、コシヒカリでは平年並の8月6日頃の見込み。コシヒカリの生育は、指標値に比べて草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況。（新潟県農林水産部 8月1日付）</li> <li>（岩 船）7月31日現在、コシヒカリの生育は、指標値と比較して、草丈は並、茎数は並、葉数は並、葉色は並。コシヒカリ（調査場所6ヶ所の平均）の生育状況は、草丈は87cm（指標比103%）、茎数は374本/m<sup>2</sup>（指標比99%）、葉数は13.0葉（指標差+0.2葉）、葉色（SPAD値）は33.6（指標差+0.6）。（村上農業普及指導センター 7月13日現在）</li> <li>（新発田）コシヒカリの生育概況（7月31日調査）は、草丈は88cm（指標比104%、並）、茎数は394本/m<sup>2</sup>（指標比107%、やや多）、葉数は13.2葉（指標差+0.4葉、やや多）、葉色は葉緑素計33.5（指標差±0、並）、指標値に比べ、草丈は並、茎数やや多、葉色は平年並に落ち着いている。出穂期は、止葉の葉耳間長調査から平年並の予想（5月10日頃移植→8月8日）。（新発田農業普及指導センター 7月31日付）</li> <li>（新潟）主要品種の収穫適期の目安（8月21日現在） <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆきん子舞（7月28日出穂）→こしいぶき（7月28日出穂）は、新潟で9月3日、新潟で9月5日</li> <li>コシヒカリ（5月5日播種、8月5日出穂）は、新潟で9月13日、新潟で9月15日</li> <li>コシヒカリ（5月10日播種、8月6日出穂）は、新潟で9月14日、新潟で9月16日</li> <li>コシヒカリ（直播、8月14日出穂）は、新潟で9月24日、新潟で9月26日</li> <li>新之助（8月11日出穂）は、新潟で9月23日、新潟で9月25日</li> </ul> </li> <li>（巻）出穂期は、早生、コシヒカリとも平年並の状況。極早生は、8月下旬から収穫適期を迎える見込み。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;収穫期予想&gt; 新潟次郎（7月21日~23日出穂）は8月30日~9月1日</li> <li>ゆきん子舞（7月24日~26日出穂）は8月31日~9月4日</li> <li>こしいぶき（7月26日~28日出穂）は9月2日~5日</li> <li>コシヒカリ（連休補え 8月3日~5日出穂）は9月13日~15日</li> <li>コシヒカリ（5月10日播種、8月6日~8日出穂）は9月16日~19日</li> </ul> </li> <li>（三 条）今年の出穂期は早生、コシヒカリともほぼ平年並となった。今年は、早生と中生の収穫適期見込みの間隔が昨年より短くなっているため、注意が必要。 <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫適期見込みは、新潟次郎（7月22日~24日出穂）は8月30日~9月1日、ゆきん子舞（7月25日~27日出穂）は8月31日~9月4日、こしいぶき（7月27日~29日出穂）は9月3日~5日、コシヒカリ連休補え（8月2日~5日出穂）は9月10日~14日、コシヒカリ5月10日播種（8月6日~8日出穂）は9月15日~18日。</li> </ul> </li> <li>（長 岡）こしいぶきの予想収穫適期は8月30日、コシヒカリ（移植）は9月11日。（長岡農業普及指導センター 8月10日付）</li> <li>（魚 沼）7月31日のコシヒカリ生育調査結果（4地点平均値）は、草丈89cm（指標値比105%）、茎数375本/m<sup>2</sup>（指標値比94%）、葉数13.1葉（指標差+0.6葉）、葉色（SPAD値）34.0（指標差+0.5）。指標値に比べ、草丈はやや長い、茎数はやや少ない、葉数はやや多い、葉色は並。（魚沼農業普及指導センター 7月31日付）</li> <li>（南魚沼）7月31日現在の生育状況（管内調査地点の平均）は、草丈は86cm（指標値比104%）で並、茎数は384本/m<sup>2</sup>（指標値比105%）でやや多、葉数は13.2葉（指標差+0.5葉）でやや早い、葉色（SPAD値）は33.7（指標差+2.2）で濃い。草丈は79~92cm、葉色は31.5~39.5とバラツキが大きく、特に葉色が濃く草丈の長いほ場では倒伏の恐れがある。なお一部では葉色が濃いほ場も見られ栄養過剰が懸念される。（南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 8月2日付）</li> <li>（十日町）収穫適期のめやす。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリ（8月3日出穂）は9月14日、コシヒカリ（8月6日出穂）は9月18日、コシヒカリ（8月9日出穂）は9月22日。</li> <li>こしいぶきは9月7日、新之助は9月26日、あきだわらは10月2日。</li> </ul> </li> <li>（柏 崎）7月31日現在、こしいぶきとコシヒカリの生育は順調。指標値と比較して、草丈は並、茎数は並~やや多い、葉数は並。こしいぶきの葉色は濃く、こしひかりは平年並。こしいぶき（3カ所平均）の生育状況は、草丈は94cm（指標比106%）、茎数は393本/m<sup>2</sup>（指標比103%）、葉数は12.9枚（指標差+0.4枚）、葉色（SPAD）は38.8（指標差+2.8）。コシヒカリ（6カ所平均）の生育状況は、草丈は90cm（指標比100%）、茎数は407本/m<sup>2</sup>（指標比110%）、葉数は13.2枚（指標差+0.4枚）、葉色（SPAD）は31.8（指標差-0.2）。出穂期は、こしいぶきは7月27日、コシヒカリは8月6日の見込み。（柏崎農業普及指導センター 8月1日付）</li> <li>7月31日現在の新之助の生育状況は、茎数、葉色はほ場差がある。生育は前回の調査時より2日程度早い。出穂期は、管内平均で8月10日頃の見込み。生育状況（3カ所平均）は、草丈は80cm、茎数は480本/m<sup>2</sup>、葉数は13.6枚、葉色（SPAD）は34.5。（柏崎農業普及指導センター 7月31日付）</li> <li>（上 越）7月31日現在のコシヒカリの生育は、指標値と比較して、草丈は長い（指標値比111%）、茎数は多い（指標値比122%）、葉数は並（指標差+0.3葉）、葉色（SPAD値）はやや濃い（指標差+0.1）。葉色は、穂肥施用により維持されている。出穂期は平年並から1日程度早いと見込まれる（5/10~15の田植では8/3~4頃が出穂期の見込み）。「こしいぶき」は平年並に出穂している（5/10~15の田植では7/30頃が出穂期）。茎数は多く、葉色は濃くなっている。（上越農業普及指導センター 7月31日付）</li> <li>（糸川）7月31日現在、コシヒカリ（田植え日：5月2~22日）の生育状況は、指標値に比べ草丈は並、茎数は多い、葉数は並、葉色は濃い。現時点で穂ばらみ期~出穂期のほ場が多く、平年並の出穂期となる見込み。出穂期は概ね平年並、前年に比べ3日程度遅くなる見込み。出穂期予想（調査地）は、5月5日移植では8月3日頃、5月10日移植では8月5日頃、5月21日移植では8月11日頃の見込み。葉色は、穂肥の効果で前回調査から濃くなっている。一部、河川沿いの低地力ほ場等で葉色の濃いほ場がみられる。（糸川地域農林振興部 8月1日付）</li> <li>（佐 渡）7月31日現在の生育状況（品種：コシヒカリ、拠点ほ場8カ所の平均）は、草丈は87cm（指標値比102%）、茎数は372本/m<sup>2</sup>（指標値比98%）、葉数は13.3葉（指標差-0.2葉）、葉色（SPAD値）は31.8（指標差-2.2）。出穂期は、こしいぶきは8月2日、コシヒカリは8月8日と予想される。（佐渡農業普及指導センター 7月31日付）</li> </ul>	

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体公表資料等（抜粋）
富山	<p>&lt;生育観測ほデータ（7月18日現在）&gt;</p> <p>（コシヒカリ）葉齢は平年並となっており、草丈、葉色は平年並、莖数は多く推移している。幼穂形成期は、平年並の7月12日となった。出穂期は、平年並の8月3日頃と見込まれる。草丈は80.7cm（平年比100%）、莖数は506本/m<sup>2</sup>（平年比112%）、葉齢は13.1（平年差+0.1）、葉色（SPAD値）は33.5（平年差+0.7）。</p> <p>（てんこもり）葉齢は平年よりやや進んでおり、草丈、葉色は平年並、莖数はやや多く推移している。幼穂形成期は、平年より2日早い7月13日となった。出穂期は、平年より2日早い8月5日頃と見込まれる。草丈は71.8cm（平年比98%）、莖数は584本/m<sup>2</sup>（平年比105%）、葉齢は14.2（平年差+0.2）、葉色（SPAD値）は36.0（平年差+1.0）。</p> <p>（てんたかく）5月5日移植の「てんたかく」の出穂期は、平年より1日遅い7月23日頃と見込まれる。成熟期は、平年より1日遅い、8月28日頃と見込まれる。</p> <p>（富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日付）</p> <p>&lt;直播栽培の生育状況（7月18日現在）&gt;</p> <p>・湛水土中直播栽培（カルバー）は、葉齢は平年並となっており、草丈、莖数、葉色とも平年並に推移している。幼穂形成期は、平年より1日早い7月16日であった。出穂期は、平年より1日早い8月7日頃と見込まれる。</p> <p>・湛水表面直播栽培（鉄）は、近年に比べ葉齢はやや進んでおり、草丈、葉色は並、莖数はやや多くなっている。幼穂形成期は、近年より1日早い7月17日頃と見込まれる。出穂期は、近年より1日早い8月7日頃と見込まれる。</p> <p>・乾田V溝直播栽培は、平年に比べて葉齢がやや進んでおり、草丈、葉色は並、莖数は多くなっている。幼穂形成期は、平年より2日早い7月19日頃と見込まれる。出穂期は、平年より2日早い8月10日頃と見込まれる。</p> <p>（富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日付）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少ない、紋枯病はやや多い、こま葉枯病は多いと予報。斑点米カメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメはやや多い、トゲシラホシカメシは平年並と予報。</p> <p>・二カメイガ（第2世代）、ヒメトビウンカ、セジロウンカは平年並、ツマグロヨコバイはやや多い、トビイロウンカ、イネアオムシは少ないと予報（富山県農林水産総合技術センター 7月28日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
石川	<p>（生育）</p> <p>・出穂期は、コシヒカリは、加賀地域は7月23日から出穂が見られており、7月24日～30日頃と予想され、平年に比べ2～3日程度早い。能登地域では、現在（7/28）出穂が始まっている圃場もみられ、7月29日～8月3日頃と予想され、平年並～2日程度早い。</p> <p>・草丈は、コシヒカリで平年比101%（加賀地域101%、能登地域102%）と並。</p> <p>・m<sup>2</sup>あたりの莖数は、コシヒカリは、401本/m<sup>2</sup>で平年比103%（加賀地域103%、能登地域101%）と並になっており、すでに出穂を迎えている圃場が多いことから、穂数は平年並に確保される見込みである。</p> <p>（農林総合研究センター 7月28日調査）</p>	<p>・8月上旬～8月下旬の病害虫の発生量は、穂いもち、紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類は多、セジロウンカ、コブノメイガは平年並、ツマグロヨコバイは多と予報（石川県農林総合技術センター 8月3日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
福井	<p>（収穫）</p> <p>農試における出穂期以降の積算気温に基づく収穫期予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハナエ字センは8月16日</li> <li>・コシヒカリは8月4日</li> </ul> <p>（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月11日付）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は平年と比較して、穂いもちが少ない、紋枯病はやや少ない、こま葉枯病は少ないと予報。斑点米カメムシ類、ツマグロヨコバイ（第2世代）、トビイロウンカは平年並、セジロウンカは少ない、フタオビコヤガ第3世代はやや多く、コブノメイガ、コバネイゴは少ないと予報（福井県農業試験場病害虫防除室 7月31日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
長野	<p>（生育）</p> <p>・豊科定点圃場（稚苗5月16日植）では「コシヒカリ」は8月4日に出穂となった。平年より5日早く昨年より1日遅い。「コシヒカリ」は7月末から8月6日頃に出穂を迎えた圃場が多く、全般に、ほぼ昨年並に出穂している。現在、平坦地の早生品種は成熟中期で、「コシヒカリ」は傾穂期。</p> <p>8月15日現在、刈り取り開始予測は、8月下旬まで気温は平年並～低くと予想されているが、出穂期が早かったので刈り取り開始は「平年より早い」ことが予想される。このため、平坦地の早生品種は8月24日頃から、コシヒカリは8月末からの収穫を想定。</p> <p>（松本農業改良普及センター 平成29年度 作物技術普及情報 第13号）</p> <p>・7月30日～8月6日の調査の結果、農業試験場水稲試験圃（須坂市八重森（標高348m））の出穂期は、平年と比較して「あきたこまち」で3日遅く（7月30日）、「コシヒカリ」で同日（8月6日）である。</p> <p>（長野県農業試験場 8月9日）</p>	<p>・8月10日からの向こう1か月間の病害虫の発生量は、穂いもちと紋枯病は平年並～やや少、白葉枯病はやや少、ツマグロヨコバイは平年並～やや少、セジロウンカはやや少、カメムシ類（斑点米）はやや多、イネツトムシはやや少、イネゴは平年並と予報（長野県病害虫防除所 8月10日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
滋賀	<p>（生育）</p> <p>&lt;農業技術振興センター 水稲作況調査（「コシヒカリ」は7月30日調査、「秋の詩」は8月10日調査）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、「コシヒカリ」、「秋の詩」ともに平年よりやや長かった。</li> <li>・莖数は、「コシヒカリ」では平年よりやや少なく、「秋の詩」では平年より少なかった。商品種とも無効分けつが多くなり、有効茎歩合は低かった。</li> <li>・出穂期は、「コシヒカリ」では7月25日で平年より4日早く、「秋の詩」では8月6日で平年より6日早かった。なお、商品種ともに出穂のばらつきが大きかった。</li> </ul> <p>&lt;「みずかみ」の生育状況（8月17日時点）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月上旬移植では8月18日頃から成熟期を迎えている。出穂のばらつきが大きく、成熟期の見極めが難しいため、刈り遅れに注意が必要。</li> <li>・5月2日移植では、成熟期は8月18日</li> <li>・5月17日移植では、成熟期は8月26日（予想）</li> </ul> <p>（滋賀県農業技術振興センター 8月21日付）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちは平年並、紋枯病、白葉枯病はやや少、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイは平年並、斑点米カメムシ類はやや多、コブノメイガは少と予報（滋賀県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
兵庫	<p>（生育）</p> <p>・7月27日現在、県南部の生育は、草丈は平年より長く、莖数は平年並～やや多い、出穂は平年よりやや早くなる見込みである。県北部では、生育は、草丈は平年より短く、莖数がかなり多い、出穂はコシヒカリで平年より1週間程度早い。</p> <p>（兵庫県環境政務部 7月31日付）</p>	<p>・8月10日からの向こう1か月間の病害虫の発生量は、穂いもちはやや少、紋枯病と細菌性病害（もみ枯細菌病・内臓褐変病）はやや多、綿葉枯病は平年並、ヒメトビウンカと斑点米カメムシ類はやや多、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、イネツトムシ、コブノメイガは平年並と予報（兵庫県病害虫防除所 8月10日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
岡山	<p>（生育）</p> <p>・7月28日現在の生育状況は、中北部（極早生・品種）では、出穂期は平年並～やや早い、穂数は平年並だが、高冷地ではやや少なめ。登熟期の高温で予想され、収穫期の前進が見込まれる。南部（中生・晩生品種）では、7月に入って高温で推移したこと、順調に分げつが増加し、莖数は平年並。現在、中生品種を中心に幼穂形成期を迎えており、出穂期の前進が予想される。</p> <p>（岡山県農林水産総合センター 岡山県農業気象技術連絡会議 7月28日付）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや多、穂いもちはやや多、白葉枯病、穂枯れ（早生種、中生種）、二カメイガ、トビイロウンカは平年並、セジロウンカ、イチモンジセセシ、コブノメイガはやや少、カメムシ類は多と予報（岡山県病害虫防除所 8月4日公表）</p> <p>・出穂期以降県下全域で、斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ等）の発生量が多いと予報。（岡山県病害虫防除所 7月27日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
広島	<p>（生育）</p> <p>・8月上旬～8月下旬の病害虫の発生量は、穂いもち（中生）はやや少、紋枯病（中南部）は多、トビイロウンカは平年並、斑点米カメムシ類（中北部）は平年並、セジロウンカはやや少、コブノメイガは少と予報（広島県西部農業技術指導所 8月9日付）</p> <p>・県南部、県中東部及び県中西部では、紋枯病の発生が多い。（広島県農林水産局 8月1日付）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>	<p>・8月上旬～8月下旬の病害虫の発生量は、穂いもち（中生）はやや少、紋枯病（中南部）は多、トビイロウンカは平年並、斑点米カメムシ類（中北部）は平年並、セジロウンカはやや少、コブノメイガは少と予報（広島県西部農業技術指導所 8月9日付）</p> <p>・県南部、県中東部及び県中西部では、紋枯病の発生が多い。（広島県農林水産局 8月1日付）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>
山口	<p>（生育）</p> <p>・5月移植のコシヒカリ・ひとめぼれでは、穂揃い期を経て傾穂期に差しかかってきた。5月下旬移植のさめむすめでは穂ばらみ期となり、6月移植のヒノヒカリでも、幼穂が確認できる時期となった。</p> <p>（長門大津、長門農林事務所農業部 8月10日付）</p>	<p>・トビイロウンカの長期予報（8月中旬時点の予測）は、「<u>1か～並発生型</u>」になる確率が高い。（山口県病害虫防除所 8月16日公表）</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちはやや多、紋枯病は平年並、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガはやや少、斑点米カメムシ類は多の予報（山口県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日付）</p>

	平年に対する遅速等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
愛 媛	<p>・8月は、早期コシヒカリ、短期あきたこまちは登熟期となる。普通期水稲は、幼穂形成期から出期を迎える。 （愛媛県農林水産研究所 8月1日）</p> <p>（生育）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、早期栽培の穂いもちは少、普通期栽培の穂いもちはやや少、紋枯病、稲こじ病はやや少～平年並と予報。 ツマグロヨコバイ、イチモンジセセリ（イネネットムシ：第2世代）、コブノメイガはやや少、セジロウカ、フタオビコヤ方はやや少～平年並、トビイロウカは平年並、斑点米カメムシ類はやや多～多と予報 （愛媛県 7月31日公表）</p> <p>・四国で縞葉枯病（ヒメトビウカ）の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月12日付）</p>
高 知	<p>・7月15日現在、早期栽培の作柄は『やや良』が見込まれる。（農林水産省 7月27日付）</p> <p>＜早期水稲の生育状況（6月30日時点）＞ 平年より早く最高分けつ期を迎えた。出穂期は、4月5日植え‘南国そだち’は6月19日であった。また、‘コシヒカリ’の出穂期は、4月5日植えが6月30日と平年より2日早かった。4月14日植えは平年並と予測。</p> <p>（生育）</p> <p>＜普通期栽培の生育状況（6月30日時点）＞ 普通期栽培では、例年どおり6月3日に‘ヒノヒカリ’を移植した。草丈が平年よりも低く、茎数が平年よりも多くなっている。葉齢でみた生育進捗は平年より早くなっており、順調に生育している。 草丈は40.8cm（平年値41.1cm）、茎数は391本/m<sup>2</sup>（平年値361本）、葉齢は8.6（平年値8.3） （高知県農業技術センター）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、穂いもちは少、こま葉枯病は多、ツマグロヨコバイは県西部で多、県東部と県中西部でやや多、県中部で平年並と予報。 ヒメトビウカは、県中西部、県西部で多、県中部でやや多、県東部で少と予報。 セジロウカ、トビイロウカは少と予報 （高知県病害虫防除所 8月3日公表）</p> <p>・四国で縞葉枯病（ヒメトビウカ）の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月12日付）</p>
福 岡	<p>・7月25日現在における水稲の生育は、草丈は平年より9～21%高く、茎数は調査場所により異なり、農産部（筑紫野市）では5～6%少なく、筑後分場（三浦郡大木町）では18～24%多かった。主穂葉数は平年より0.7～0.9葉多く、生育は進んでいる。 （福岡県 福岡県米委品質改善協会 7月27日付）</p> <p>（生育）</p>	<p>・8月の病害虫の発生量は、葉いもちは少、セジロウカはやや少、トビイロウカはやや多、コブノメイガは少と予報 （福岡県病害虫防除所 8月1日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日付）</p>
熊 本		<p>・8月の病害虫の発生量 早植え水稲－穂いもちはやや少、トビイロウカは並、斑点米カメムシ類は並、紋枯病はやや少と予報 早植え・普通期水稲－コブノメイガはやや少と予報 普通期水稲－葉いもちはやや少、トビイロウカは平年並、紋枯病は並と予報 （熊本県病害虫防除所 7月31日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日付）</p>
宮 崎	<p>・7月15日現在、早期栽培の作柄は『良』が見込まれる。（農林水産省 7月27日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>・向こう1か月間の普通期水稲の病害虫の発生量は、葉いもち、紋枯病は平年並、ツマグロヨコバイはやや多、セジロウカは少、トビイロウカは並、ヒメトビウカはやや多、コブノメイガはやや少と予報。 （宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月28日公表）</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日付）</p>
鹿 児 島	<p>・7月15日現在、早期栽培の作柄は『良』が見込まれる。（農林水産省 7月27日付）</p> <p>（作柄）</p>	<p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想 （農林水産省 7月26日付）</p> <p>・8月の病害虫の発生量は、普通期水稲の葉いもち、穂いもち、トビイロウカはやや多、紋枯病は平年並、コブノメイガはやや少と予報。（鹿児島県病害虫防除所 7月27日公表）</p>

注1：地方自治体及び出先機関等がホームページで公表している資料を採録機関情報部で取り纏め。  
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 28年度	作況指数 28年度
		前年度との比較		増減率	自主的取組参考値（深堀）		
		平成29年度	前年度				
		t	t	%	t	t	
全国	<p>・8月19日～9月18日の1か月間は、北・東日本の平均気温は平年並が高く、西日本では高い見込み。降水量は、北日本日本海側ではほぼ平年並、北日本太平洋側、東・西日本では平年並が多い見込み。</p> <p>北日本太平洋側では、向こう1か月の日照時間は少なく、東・西日本でも平年並か少なく、北日本日本海側ではほぼ平年並の見込み。北・東日本太平洋側では、期間のはじめは日照時間の少ない状態が続く見込み。</p> <p>（気象庁 8月17日発表）</p> <p>（8～10月の3か月間の見通し）</p> <p>・向こう3か月の気温は高い見込み。東・西日本では、向こう3か月の降水量は、平年並か少ない見込み。北日本は、ほぼ平年並の見込み。</p> <p>（気象庁 7月25日発表）</p>	7,350,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,330,000	7,496,000	103
北海道	<p>・北海道地方の8月19日～9月18日の1か月間は、オホーツク海側と太平洋側では、期間のはじめは気温が低く、日照時間が少ない状態が続く見込み。</p> <p>向こう1か月の平均気温は、日本海側とオホーツク海側で平年より高く、太平洋側では平年並が高い見込み。</p> <p>太平洋側の向こう1か月の降水量は平年並が多く、日照時間は少ない見込み。</p> <p>日本海側とオホーツク海側では、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。</p> <p>（札幌管区気象台 8月17日発表）</p>	535,669	▲ 5,831	▲ 1.1	534,212	545,500	102
青森	<p>・東北地方の8月19日～9月18日の1か月間は、東北太平洋側を中心に、期間のはじめは気温が低く、日照時間が少ない状態が続く見込み。</p> <p>向こう1か月の平均気温は、日本海側では平年並が高く、太平洋側では平年並の見込み。</p> <p>降水量は、平年並が多い見込み。</p> <p>日照時間は、東北日本海側で平年並か少なく、東北太平洋側で少ない見込み。</p> <p>（仙台管区気象台 8月17日発表）</p>	237,294	▲ 2,583	▲ 1.1	236,649	222,300	104
岩手	同上（仙台管区気象台 8月17日発表）	265,432	▲ 2,889	▲ 1.1	264,710	254,300	102
宮城	同上（仙台管区気象台 8月17日発表）	341,193	▲ 3,713	▲ 1.1	340,264	352,300	105
秋田	同上（仙台管区気象台 8月17日発表）	408,644	▲ 4,448	▲ 1.1	407,532	409,600	104
山形	同上（仙台管区気象台 8月17日発表）	337,160	▲ 3,670	▲ 1.1	336,243	345,300	103
福島	同上（仙台管区気象台 8月17日発表）	332,316	▲ 3,617	▲ 1.1	331,412	333,600	102
茨城	<p>・関東甲信地方の8月19日～9月18日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並の見込み。</p> <p>日照時間の少ない状態が続いており、1か月の日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並が多くなる見込み。</p> <p>（気象庁 8月17日発表）</p>	330,182	▲ 3,594	▲ 1.1	329,284	350,100	99
栃木	同上（気象庁 8月17日発表）	292,326	▲ 3,182	▲ 1.1	291,531	295,300	102
埼玉	同上（気象庁 8月17日発表）	148,047	▲ 1,612	▲ 1.1	147,644	154,100	101
千葉	同上（気象庁 8月17日発表）	241,239	▲ 2,625	▲ 1.1	240,582	295,900	102
新潟	<p>・北陸地方の8月19日～9月18日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。</p> <p>（新潟地方気象台 8月17日発表）</p>	510,184	▲ 5,553	▲ 1.1	508,796	589,700	108
富山	同上（新潟地方気象台 8月17日発表）	181,695	▲ 1,977	▲ 1.1	181,200	191,300	106
石川	同上（新潟地方気象台 8月17日発表）	120,996	▲ 1,317	▲ 1.1	120,667	123,900	104
福井	同上（新潟地方気象台 8月17日発表）	122,787	▲ 1,337	▲ 1.1	122,453	126,300	104
長野	<p>・関東甲信地方の8月19日～9月18日の1か月間は、平均気温はほぼ平年並の見込み。</p> <p>日照時間の少ない状態が続いており、1か月の日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並が多くなる見込み。</p> <p>（気象庁 8月17日発表）</p>	189,867	▲ 2,066	▲ 1.1	189,350	197,800	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
滋 賀	・近畿地方の8月19日～9月18日の1か月間は、平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （大阪管区気象台 8月17日発表）	157,032	▲ 1,709	▲ 1.1	156,604	161,300	104
兵 庫	同上（大阪管区気象台 8月17日発表）	176,596	▲ 1,922	▲ 1.1	176,115	177,400	100
岡 山	・中国地方の8月19日～9月18日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （広島地方気象台 8月17日発表）	155,172	▲ 1,689	▲ 1.1	154,750	155,600	101
広 島	同上（広島地方気象台 8月17日発表）	127,201	▲ 1,384	▲ 1.1	126,855	124,300	102
山 口	・九州北部地方（山口県含む）の8月19日～9月18日の1か月間は、気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （福岡管区気象台 8月17日発表）  ・「高温に関する異常天候早期警戒情報」 九州北部地方（山口県含む）は、8月26日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.6℃以上） （福岡管区気象台 8月21日発表）	106,443	▲ 1,158	▲ 1.1	106,153	101,400	102
愛 媛	・四国地方の8月19日～9月18日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高くなる可能性があり、2週目は平年並の気温となる時期もあるが、向こう1か月の平均気温は高い見込み。 向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （高松地方気象台 8月17日発表）  ・「高温に関する異常天候早期警戒情報」 四国地方では、8月26日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。 （7日平均地域平年差+1.6℃以上） （高松地方気象台 8月21日発表）	72,345	▲ 788	▲ 1.1	72,148	72,100	102
高 知	同上（高松地方気象台 8月17日発表、8月21日発表）  ・吉野川では、6月17日から20%の取水制限（農業用水）が実施されている。 （国土交通省 8月14日現在）	49,003	▲ 534	▲ 1.1	48,870	53,100	100
福 岡	・九州北部地方（山口県含む）の8月19日～9月18日の1か月間は、気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （福岡管区気象台 8月17日発表）  ・「高温に関する異常天候早期警戒情報」 九州北部地方（山口県含む）は、8月26日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.6℃以上） （福岡管区気象台 8月21日発表）	178,582	▲ 1,944	▲ 1.1	178,097	177,400	100
熊 本	同上（福岡管区気象台 8月17日発表、8月21日発表）	185,277	▲ 2,016	▲ 1.1	184,773	171,300	102
宮 崎	・九州南部地方の8月19日～9月18日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があり、向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。 （鹿児島地方気象台 8月17日発表）  ・「高温に関する異常天候早期警戒情報」 九州南部地方は、8月26日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+1.1℃以上） （鹿児島地方気象台 8月21日発表）	91,606	▲ 997	▲ 1.1	91,357	77,200	100
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 8月17日発表、8月21日発表）	108,704	▲ 1,183	▲ 1.1	108,408	97,600	100

出所(原資料):

平成29年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)  
平成28年度産米の収穫量(農林水産省)  
平成29年度病害虫発生予報第5号(農林水産省 7月26日)  
平成29年度産米の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月27日)

農作物の生育状況 8月1日現在(北海道 8月18日)、農作物生育状況 8月1日現在(北海道空知総合振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道石狩振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道後志総合振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道胆振総合振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道日高振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道渡島総合振興局 8月18日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道釧路振興局 8月18日)、  
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道上川総合振興局 8月18日)、農作物生育状況調査の概要 8月1日現在(北海道留萌振興局 8月18日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月18日)、  
平成29年度病害虫発生予報第11号(8月予報)(北海道病害虫防除所 7月27日)、  
8月15日現在水稲出穂状況(青森県 8月16日)、低温・日照不足に係る水稲の緊急調査について(青森県 8月18日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月26日)、  
農産物技術情報 号外低温・寒照対策(岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部 8月17日)、  
平成29年度農作物病害虫防除速報No.11水稲編-7(岩手県病害虫防除所 8月18日)、  
水稲の出穂状況(8月10日現在概況速報)について(岩手県 8月10日)、  
平成29年度農作物病害虫発生予報第5号(8月予報)(岩手県病害虫防除所 7月27日)、  
平成29年度産米の出穂状況について(8月17日現在)(宮城県農林水産部 8月18日)、  
平成29年度 宮城県米づくり推進本部 臨時情報 第2号 水稲の出穂状況といもち病対策について(臨時情報)(宮城県米づくり推進本部 8月18日)、  
平成29年度発生予報情報 防除情報第6号(宮城県病害虫防除所 8月17日)、  
日照不足と低温に伴う農作物の技術対策情報(宮城県仙台農業改良普及センター 8月17日)、  
平成29年度美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 8月2日)、  
栗原の稲作通信臨時情報 出穂状況といもち病対策について(宮城県米づくり推進栗原地方本部(宮城県栗原農業改良普及センター) 8月21日)、  
稲作情報(低温寒照臨時号)(石巻農業改良普及センター 8月18日)、  
(緊急情報)低温・日照不足に伴いいもち病への警戒及び登熟促進対策を!(宮城県米づくり推進石巻地方本部 いしのまき農業協同組合 8月21日付)、  
平成29年度産米・南三陸稲作情報第8号(宮城県本吉農業改良普及センター 8月10日)、  
平成29年度発生予報情報発生予報第8号-水稲(宮城県病害虫防除所 8月4日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月18日)、  
平成29年度農作物病害虫発生予報情報発生予報第4号(8月予報)(秋田県病害虫防除所 7月28日)、  
米づくり技術情報No.10(オールやまがた米づくり日本一運動本部 8月18日)、  
低温・日照不足に対する農作物等の技術対策について(山形県農業技術環境課 8月17日付)、  
おきたま米づくり情報No.7(オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部実践班 8月2日)、  
酒田・飽海日本一米づくり情報第9号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月15日)、  
稲作だより緊急対策号(オールやまがた米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 8月4日)  
平成29年度農作物有害動物発生予報情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月26日)、  
日照不足・低温に関する農作物等の当面の技術対策(福島県農林水産部農業振興課 8月18日)、  
主要な農作物の生育情報平成29年度第5号(福島県農林水産部 8月4日)、  
平成29年度病害虫発生予報情報発生予報第4号(7月)(福島県病害虫防除所 7月21日)、  
農研速報 水稲の生育状況(7月28日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 7月31日)、  
農研速報 水稲の生育状況(8月7日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 8月10日)、  
病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月31日)、  
平成29年度水稲生育診断予測事業速報No.6(普通植栽培8月3日調査結果)(栃木県 8月8日)、  
植物防疫ニュース(速報No.7)(栃木県農業環境指導センター 8月3日)、  
平成29年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月21日)、  
平成29年度水稲の生育概況vol.3(平成29年8月3日現在)(埼玉県農業技術研究センター 8月8日)、  
平成29年度病害虫発生予報第4号(8月予報)(埼玉県病害虫防除所 7月27日)、  
水稲の生育状況と当面の対策第6報(千葉県農林水産部 7月28日)、平成29年度病害虫発生予報第5号(千葉県農林総合研究センター 8月10日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 8月1日)、  
H29船米生育速報(7月31日現在)(村上農業普及指導センター 7月31日)、  
新発田地域水稲生育速報No.8(新発田農業普及指導センター 7月31日)、  
技術情報No.8(新潟農業普及指導センター 8月22日)、  
水稲技術対策資料No.5(巻農業普及指導センター 8月9日)、  
FAX稲作情報No.12(三条農業普及指導センター 8月18日)、  
稲作情報No.7(長岡農業普及指導センター 8月10日付)、  
コシヒカリ生育情報(魚沼農業普及指導センター 7月31日)、  
稲作情報No.10(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 8月2日)、  
収穫適期のめやす(平埴地域)(十日町地域)(十日町農業普及指導センター)、  
稲作管理情報No.7(柏崎農業普及指導センター 8月1日)、柏崎地域新之助栽培情報No.8(柏崎農業普及指導センター 7月31日)、  
平成29年上越地域米コシヒカリこしひきき生育速報(7月31日)(上越農業普及指導センター)、  
平成29年度稲作生育速報No.7(佐渡農業普及指導センター 7月31日)、  
平成29年度糸川川あれる米づくりコシヒカリ生育情報NO.7(糸川川地域農林振興部 8月1日)、  
平成29年度新潟県病害虫発生予報情報・予報第6号(8月の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月31日)、  
TACS情報第8号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日)、直播情報(第6号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月18日)、  
病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター 7月28日)、  
平成29年度産米の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月28日)、  
病害虫発生予報第5号(石川県農林総合研究センター 8月3日)、  
稲作情報No.14(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会(農業試験場、福井米戦略課、組合員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会) 8月11日)、  
平成29年度農作物病害虫発生予報第6号(福井県農業試験場 7月31日)、  
平成29年度 作物技術普及情報 第13号(松本農業改良普及センター)、  
水稲の生育状況(平成29年度)(長野県農業試験場 8月6日)、  
病害虫発生予報第5号(長野県病害虫防除所 8月10日)、  
平成29年度水稲生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月21日)、  
平成29年度病害虫発生予報第8号(滋賀県病害虫防除所 8月1日)、  
平成29年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)について(兵庫県農政環境部 7月31日)、  
平成29年度病害虫発生予報第4号(兵庫県病害虫防除所 8月10日)、  
生育情報No.1水稲における当面の技術対策について(岡山県農林水産総合センター 岡山県農業気象技術連絡会議 7月28日)、  
平成29年度病害虫発生予報注意報第1号(岡山県病害虫防除所 7月27日)、平成29年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 8月4日)、  
平成29年度広島県病害虫発生予報情報第7号(水稲)(広島県西部農業技術指導所 8月9日)、  
平成29年度病害虫発生予報情報第1号(広島県農林水産局 8月1日)、  
稲作ワンポイントアドバイス(No7)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 8月10日)、イネのトビイロウカノ長期予報(8月中旬時点の予測)(山口県病害虫防除所 8月16日)、  
農作物病害虫発生予報8月(山口県病害虫防除所 8月1日)、  
気象情報に基づく技術対策・作物平成29年8月(愛媛県農林水産研究所 8月1日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県 7月31日)、  
平成29年度における水稲(早期・普通期)の生育状況(6月30日時点)(高知県農業技術センター 6月30日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(8月)(高知県病害虫防除所 8月3日)、  
福岡県米麦大豆生産改善速報第3号(福岡県 福岡県米麦品質改善協会 7月27日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(8月)(福岡県病害虫防除所 8月1日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所 7月31日)、  
平成29年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月28日)、  
平成29年度病害虫発生予報第5号(8月)(鹿児島県病害虫防除所 7月27日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部、奄美地方こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)  
全国向こう3か月の天候の見通し(気象庁)、全国向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、  
異常天候早期警戒情報(高松地方気象台、福岡管区気象台、鹿児島地方気象台 8月21日)  
平成29年度渇水状況について(8月14日現在)(国土交通省)、